技術とアイデアで勝負する 金属加工の町工場

代表取締役 **髙橋 典子**

群馬県出身。『髙橋製作所』の二代目社長と結婚。電機メーカーや金融機関に勤め、その後、忙しくなった家業を手伝うため同社に入る。2010年、夫の他界により代表取締役に就任。

【PROFILE】

金属プレス加工・金型・各種試作

㈱髙橋製作所

東京都東久留米市柳窪 5-4-11
TEL 0424-70-1955

金属のプレス加工をメインに、部品製造、金型設計製作、各種金属部品試作なども手がける『髙橋製作所』。創業から45年の実績がある同社は、ノートパソコン用ハードディスクドライブのカバー部品の生産で技術力を培ってきた。そして現在、自動車部品をはじめ、建築・環境・アミューズメント・医療用機器など多岐にわたる守備範囲で活躍する。高精度・高品質な製品に定評がある同社に俳優の志垣太郎氏が訪れ、髙橋社長にお話を伺った。

一口に「金属加工」と言っても、その内容は多岐にわたる。扱う金属が変われば、当然必要とされる技術も異なる。特に試作品製造などはまさに未知なる作業であり、クリアしなければならない課題が多い。「コストを抑えたい」というような要望が、そこに含まれることもある。「金属は生きていますからね」との髙橋社長の言葉には、その難しさが表れていた。

だが『髙橋製作所』は、蓄積したノウハウと、専門会社や各分野のスペシャリストとの幅広いネットワークにより、様々な要望を実現してきた。さらに、独創的なアイデアを盛り込むことで、可能性も追求している。たとえば、金属加工を文化芸術品の製造に生かす試みも引き受けた。掛け軸の縁の部分を金属で作ったその製品は、同社のウェブサイトで見ることもできる。今後同社が、どのようなアイデアで要望を形にしていくのかにも注目したい。

志垣　まずは御社の創業についてお聞かせ下さい。

髙橋　義父が蓄音機の部品製造を手がける町工場を立ち上げたのが始まりです。その後、当社を設立して、主人が二代目となり、私で三代目となります。

志垣　ご主人と結婚してすぐ、この業界に入られたのですか。

髙橋　いいえ。前は外へ勤めに出ておりました。最初は電機メーカーに、次に金融機関にて営業として20年勤めていたのです。営業の仕事が向いていて、化粧品などの販売をしていたことも。そんな中、家業のほうが忙しくなり、主人に手伝うよう言われまして。それからですね。この仕事に携わるようになったのは。

志垣　会社を継がれたのはいつですか。

髙橋　2010年です。主人が他界したことから、当社を引き継ぎました。主人のやってきたことを傍で見ていたものの、やはり経営は大変ですね。お取引先の方々にもご心配をかけてしまって……。多くの方に助けていただいて今の会社があると、心より感謝しております。

志垣　大変なところを、乗り越えられたのですね。

髙橋　スタッフの皆がいてくれたからできたことでもあります。浮須工場長も中心となって頑張ってくれました。当社に入る以前は、協力会社にいたんですよ。彼は二代目社長の奇特な人柄と高い技術力に惚れ込んで、当社へ入りました。それから10年になりますが、工場長の技術や人柄などの点で、とても頼りにしているんですよ。そして私たちは、協力会社と一体となり二代目社長の意志を受け継ぎ、これまでやってきたのです。協力会社の方々には本当に感謝しています。

志垣　こちらは金属のプレス加工を手がけているそうですが、どのようなものを作っておられるのですか。

髙橋　一時期はノートパソコン用ハードディスクのカバー部品生産で高いシェアを有し、技術力やノウハウを培ってきました。そして現在、自動車部品をはじめ、建築・環境・アミューズメント・医療用機器、建築用金物、水質浄化のためのオゾン機器など多数手がけております。近年の在庫レス、小ロット生産のニーズにも応えるため、金属のことなら何でも挑戦しています。たとえば、この金属の名刺もその一つです。

志垣　とてもユニークですね！

髙橋　ええ。でも変わっているというだけではありません。気付きにくいですが、ここには色んなアイデアが含まれているんです。薄く仕上げているのに、決して手を切るようなことがない技術と、鏡面仕上げを生かして鏡としても使えるアイデア。そして、一度見たら忘れられないインパクトもあります（笑）。

志垣　素晴らしい。その発想力も強みですね。御社でなら楽しみながら仕事ができそうです。

髙橋　職場はとてもアットホームな雰囲気です。皆と共に現場にも出ますし、雑用も一緒にします。スタッフと経営側との隔たりがない、ファミリー的な社風をスタッフも好んでくれています。

志垣　社長からスタッフの皆さんによく話されることは何ですか。

髙橋　「感謝の気持ちを持ちましょう」ということですね。お仕事を下さるお客様に対して感謝。また、ネガティブな出来事についてもそう感じましょうと。たとえば、失敗を指摘してくれた人がいたら、その方に対しても感謝。そのお陰で、大きな問題にならないわけですし、そこで「見つけてくれてありがとう」という気持ちを持てれば、人間関係のトラブルも起きません。良いムードの中で仕事ができてこそ、良い製品を生み出せる。そんな私の想いを皆もよく理解してくれているので、私も皆に感謝しています。

志垣　謙虚ですね。思いますに、そういう性格の方こそ、こういったものづくりには向いているのかもしれませんね。

髙橋　私に限らず、スタッフの皆も、謙虚でまじめです。中途半端な人はいませんし、だからこそ質の高い仕事ができています。私たちのような町工場も日本の技術力の一端を担っていますから、技術を次世代に伝えていくためにも、力を合わせていきたいと思っています。

志垣　今後が楽しみです。

髙橋　将来的な夢としては、技術やアイデアを生かして、自社製品を作りたいと考えています。これまで長い間、ものづくりに取り組んできた中で培った横のつながりなども生かせば、何かできるのではないかと思っています。

（取材／2012年4月）

After the Interview

「近年、品質の高さから、メイド・イン・ジャパンがブランドとして見直されているそうです。とりわけ、精度が要求されるような分野では、これまでの海外進出ではなく、海外から日本に製造拠点を移すところが出てきているのだとか。そうした技術立国日本を支えているのが『髙橋製作所』さんのような町工場だとも言えます。日本の技術を伝えるためにも『髙橋製作所』さんには、これからも頑張っていただきたいですね」